

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	狩俣 繁久		所 属	国際沖縄研究所	
職 名	教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	(1)前期は共通教育1コマ、学部4コマ、大学院5コマ、合計10コマの講義を担当する。 (2)後期は学部4コマ、大学院5コマ、合計9コマの講義を担当する。 (3)上記科目へ留学生、社会人を受け入れる。 (4)学部の科目に実習科目(野外調査)を実施し、学生の実践的な調査研究能力を高める。	0.20	(1)前期は共通教育1コマ、学部4コマ、大学院5コマ、合計10コマの講義を担当した。 (2)後期は学部4コマ、大学院5コマ、合計9コマの講義を担当した。 (3)学部の科目に実習科目(野外調査)を実施し、学生の実践的な調査研究能力を高めるために伊平屋島の方言調査を実施した。	
研究	0.35	(1)国際沖縄研究所「グローバル社会の周縁から中心へー自律的島嶼社会モデルの構築」の多様性ユニットに参加して研究を推進する。 (2)科研費基盤(B)「八丈語の保存・継承の研究のための総合研究」(代表者:金田章宏千葉大学教授)の分担者として研究を遂行する。 (3)学内中期計画達成プロジェクト経費「琉球列島における消滅に瀕した民俗文化レッドデータリスト作成のための基礎的研究」を申請する。 (4)学長リーダーシップ研究プロジェクトの一つのプロジェクトとして「琉球諸語における“動的”言語系統樹システムの構築」の研究を推進する。 (5)文化庁委託「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」に分担者として参加し研究を行なう。 (6)国立国語研究所の客員教員として「とりたて表現の対照研究」プロジェクトの研究を遂行する。 (7)国立国語研究所の客員教員として「名詞修飾表現の対照研究」プロジェクトの研究を遂行する。 (8)国際沖縄研究所IJOSに投稿する。 (9)法政大学沖縄文化研究所紀要『琉球の方言』42号に投稿する。 (10)『琉球アジア文化論集』4号に投稿する。 (11)沖縄言語研究センターの公開研究会で発表する。 (12)国立国語研究所の共同研究プロジェクト研究発表会で発表する。	0.35	(1)国際沖縄研究所「グローバル社会の周縁から中心へー自律的島嶼社会モデルの構築」の多様性ユニットに参加して研究を推進した。 (2)科研費基盤(B)「八丈語の保存・継承の研究のための総合研究」(代表者:金田章宏千葉大学教授)の分担者として研究を遂行した。 (3)学内中期計画達成プロジェクト経費「琉球列島における消滅に瀕した民俗文化レッドデータリスト作成のための基礎的研究」を申請したが不採択となった。 (4)学長リーダーシップ研究プロジェクトの一つのプロジェクトとして「琉球諸語における“動的”言語系統樹システムの構築」の研究を推進し、学外の研究者を招いたシンポジウムを開催した。 (5)文化庁委託「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」に分担者として参加し、国頭村奥集落と伊平屋島の方言調査を実施した。 (6)国立国語研究所の客員教員として「とりたて表現の対照研究」プロジェクトの研究に参加し2度の研究会に参加するとともに研究成果の原稿を提出した。 (7)科学研究費基盤研究(S)に「言語系統樹を用いた琉球語の比較歴史言語学的研究」(2017年～2021年)研究費総額1億3千700万円を採択され、研究を開始した。 (8)国際沖縄研究所IJOSに英語論文を投稿した。 (9)国際沖縄研究所紀要に論文を投稿した。 (10)『琉球アジア文化論集』4号に投稿した。 (11)沖縄言語研究センターの公開研究会で発表した。	
社会 貢献	0.10	(2)国立国語研究所の危機方言研究委員を務める。 (3)日本語学会(全国組織)運営委員を務める。 (4)日本語学会(全国組織)運営委員を務める。 (5)日本語文法学会(全国組織)の編集委員を務める。 (6)沖縄言語研究センター研究運委員長を務める。 (7)恩納村教育委員会編『恩納村の方言』の編集委員長を務める。 (8)県立博物館美術館のシマクトゥバプロジェクトの企画運営に携わる。 (9)名護市幸喜方言辞典作成のための臨地調査を行い、辞典を編集する。 (10)文化庁、沖縄県、琉球大学共催の「危機的な状況にある言語・方言サミット(北海道大会)のシンポジウムに参加する。	0.10	(2)国立国語研究所の危機方言研究委員を務めた。 (3)日本語学会(全国組織)運営委員を務めた。 (4)日本語学会(全国組織)運営委員を務めた。 (5)日本語文法学会(全国組織)の編集委員を務めた。 (6)沖縄言語研究センター研究運委員長を務めた。 (7)恩納村教育委員会編『恩納村の方言』の編集委員長を務めた。 (8)県立博物館美術館のシマクトゥバプロジェクトの企画運営に携わった。 (9)名護市幸喜方言辞典作成のための臨地調査を行い、辞典を編集のための調査を実施した。 (10)文化庁、沖縄県、琉球大学共催の「危機的な状況にある言語・方言サミット(北海道大会)のシンポジウムに参加した。	
管理 運営	0.35	(1)グローバル教育支援機構副機構長を務める。 (2)学士教育プログラム委員会の委員長を務める。 (3)国際沖縄研究所副所長を務める。	0.35	(1)グローバル教育支援機構副機構長を務めた。 (2)学士教育プログラム委員会の委員長を務めた。	
計	1.00		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1)本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	藤田 陽子		所属	国際沖縄研究所	
職名			職名	教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.25	<p>①次の科目についてシラバスに従って授業を実施し、終了時には授業評価アンケート(対象科目のみ)を実施する。 学部:環境経済学(昼間主・夜間主)、総合環境学概論(オムニバス、1コマ分)、キャリアデザインとジェンダー(オムニバス、1コマ分) 博士前期課程(経済システム領域):環境経済学特論・環境経済学演習・総合社会システム特別演習(政策評価実践コース、チームティーチング)博士前期課程(島嶼研究領域):島嶼経済特論・島嶼経済演習 博士後期課程:比較地域文化総合演習Ⅰ・Ⅱ(チームティーチング)、島嶼環境経済特論、島嶼環境経済演習 ②博士後期課程比較地域文化専攻において教務委員を務める。 ③学生・院生から進路や就学に関する相談を受けた場合は適切に対応する。</p>	0.20	<p>①下記科目について、シラバスに従い講義を行い、授業評価アンケートを実施(対象科目のみ)した。 学部:環境経済学(昼間主・夜間主)、総合環境学概論(オムニバス、1コマ分)、キャリアデザインとジェンダー(オムニバス、1コマ分) 博士前期課程(経済システム領域):総合社会システム特別演習(政策評価実践コース、チームティーチング) 博士後期課程:比較地域文化総合演習(チームティーチング) ②博士後期課程比較地域文化専攻において教務委員を務めた。 ③学生・院生からの履修相談等に対応した。 ④筑波大学生命環境科学研究所からの要望に応じ、本学を訪問した留学生(15名)を対象としたセミナーを企画・実施した。(平成30年2月2日)</p>	
研究	0.25	<p>①文部科学省特別経費事業「自律型島嶼社会の創生に向けた「島嶼地域科学」の体系化」のプロジェクトリーダーを務める。 ②地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)の「サンゴ礁島嶼系における気候変動による危機とその対応」のPIとしてパラオ共和国における調査研究を遂行し、論文を執筆・投稿する。 ③平成30年度に向けて科研費の申請を行う。</p>	0.20	<p>①「島嶼地域科学」プロジェクトについては、プロジェクトリーダーとして、月例ミーティングの他、書籍出版準備、RETIカンファレンスでの特別セッション設置、共通教育科目「島嶼地域科学入門」の次年度開講に向けた準備に取り組んだ。 ②SATREPSについては、International Small Islands Studies Association(国際小島嶼学会) World Conference 2017での口頭発表、パラオでのシンポジウム(9月)およびセミナー(2月)、国内シンポジウム(3月)での口頭発表、書籍「Paradise of Nature」の分担執筆、PICRC Technical Reportの執筆により、研究成果を公表した。 ③科研費を申請した。(基盤研究(C)) ④沖縄県立芸術大学島嶼学シンポジウム「沖縄の人移動と未来へ展望—島嶼・環境・文化—」(於:県立芸大)、「Public lecture—Okinawa: History, Nature, Literature」(於:マルタ大学)にて講演を行った(3月)。</p>	
社会貢献	0.05	<p>①学外における各種審議会・委員会等の委員就任依頼等に対し、専門家としての知識を社会に還元する必要がある場合は可能な限り応じる。(H29年度:沖縄地方労働審議会、他2件、計3件) ②学部科目「環境経済学」(昼間主・夜間主)を公開授業とする。 ③放送大学面接授業「現代経済と環境」を担当する。</p>	0.05	<p>①沖縄地方労働審議会委員、沖縄型海岸整備検討委員会委員等を務めた。 ②「環境経済学」について、公開授業受講生(3名)を受け入れた。 ③放送大学面接授業「現代経済と環境」を担当した。(4月22日・23日、受講生11名)</p>	
管理運営	0.45	<p>①国際沖縄研究所長として、同所の運営管理を行う。 ②国際沖縄研究所の全国共同利用・共同研究拠点化に向けた事業を推進する。 ③学内委員会等委員(研究推進会議、琉球大学管理運営に関する自己点検・評価委員会、全学情報システム運用委員会、全学情報システム技術専門委員会)を務める。 ④Reseau d'excellence des territoires insulaires(島嶼大学間ネットワーク:RETI)2017年度大会(琉球大学開催)の企画・運営・開催にあたる。 ⑤所長として、Environmental Scientists Network for Asia-Pacific Islands(アジア太平洋環境研究者ネットワーク会議:ESNAP)の企画・開催に関与する。</p>	0.55	<p>①運営委員会・研究所会議他、各種会議の招集・開催、諸規程の改定、等を含む研究所の管理運営に関する業務を主導した。 ②文科省特別経費(共通政策課題分 新たな共同利用・共同研究体制の充実)による各種事業を統括した。平成31年度全国共同利用・共同研究拠点の申請を行った。 ③学内委員会等委員(研究推進会議、琉球大学管理運営に関する自己点検・評価委員会、全学情報システム運用委員会、全学情報システム技術専門委員会)を務めた。 ④RETIカンファレンス2017のプロジェクト・リーダーとして、企画・運営・開催にあたった。(参加人数約100名) ⑤本年度のESNAPは南太平洋大学(フィジー)主催で行われたため関与しなかった。</p>	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。